

第3回 冬期道路交通の確保のあり方に関する検討委員会

議事概要

1. 日時

平成24年11月5日（月）13:00～15:00

2. 出席者委員

田村亨委員長、木村一裕委員、倉内利浩委員、丸山結香委員、諸橋和行委員

3. 議事概要

- ・全国雪対策連絡協議会 会長 鹿内博氏（青森市長）より、雪国の自治体が抱える冬期道路交通確保の現状、課題等について説明を頂き意見交換を行った。
- ・効果的・効率的な除雪について、事務局より資料について説明し、討議を行った。

■青森市長との意見交換について

- 除雪業者の減少、高齢化の進行、車依存が高まる中、中長期的な視点で雪対策の検討が必要ではないか。
- 都市計画道路など、社会状況や道路整備状況に応じて指定路線を見直すべきではないか。
- 行政、住民、事業者の連携（パートナーシップ）が重要である。
- 除排雪対策は、画一的に実施するのではなく、地域特性を考慮した施策を実施することが重要である。
- 近年の激しい雪の降り方に対して、国が支援し、国、県、市が連携して対応していく必要がある。
- 除排雪費用の確保だけが課題ではなく、市民との連携、除雪体制の確保も深刻な課題である。

■効果的・効率的な除雪について

- 雪国の各自治体が、雪対策について様々な工夫を行っているが、目先の対応に追われている。中長期的な対応を考えることも重要。
- 地域の抱える様々なニーズにどのように対応するかは各自治体が選択す

べき。国は、各自治体が効率的・効果的にニーズに対応するよう支援すべき。

- 高齢化の進行等により自助・共助・公助についてこれまでの枠組みが機能しなくなっている。自助・共助・公助の隙間を埋める取り組みが重要。その上で、行政としての支援の限度、自助・共助・公助の役割分担が必要であることをアナウンスすることが重要ではないか。
- 除雪延長について、現在でも増加している要因を把握し、その上で対応策を考えることが必要である。